

近森オルソリハビリテーション病院

副院長兼看護部長 中谷 明未

1. はじめに

2023年は、診療報酬改訂の影響を受け、回復期病棟をやむなく地域包括ケア病棟への機能転換となり、整形外科患者だけでなく、内科患者の受け入れに向けた病院の体制作りが主流になった。元々整形外科専門の回復期病院として開院し、整形外科の急性期治療を受けた患者を受け入れ、在宅や社会復帰につながるリハビリテーション医療の提供に専念していた。今後は幅広く入院患者を受け入れ、急性期から在宅への橋渡しをはじめとした地域に密着した病院としてさらに研鑽を積み重ね、取り組んでいく様になっている。

2020年から引き続いている COVID-19 の感染の影響も社会の患者数により病院内への影響を受け、病院内でも発生する様々な状況に柔軟な対応が迫られ続けているが、その都度検討と対策を行い、安全で安心な医療と看護・ケアの提供に務め、今後も変わらず医療提供を行っていく。

2. 病院の状況

当院は、運動器の整形外科中心のリハビリテーションを提供する定床数 100 床の病院である。診療科は整形外科とリハビリテーション科に加え、今年より内科医が加わり、手厚い診療の提供を行えることとなった。病棟は 44 床（急性期一般病床 14 床・地域包括ケア病床 30 床）と 56 床（地域包括ケア病床）の病棟 2 単位と外来リハビリテーション機能を備えている。急性期医療を引き継ぎ、患者を全人的に捉え安心して楽しく暮らせる早期の社会復帰のために最適なリハビリテーション医療を 365 日休まず提供するという理念に沿って、日々業務に従事している。病床管理では、病床稼働率 89.7%（82.9～98.3%）と昨年並みとなっている。

3. 看護部の活動

一昨年より病棟の機能再編を視野に、近森会グループ看護部全体で、研修ローテーションを計画し、実施している。各院からの精鋭を、他院へ送り、それぞれの目標に応じた研修内容や期間を設けておこなっている。2023 年は、看護部長も研修に参加し近森会グループ各院との連携強化に努めた。また、県内の他施設への研修参加もあり、スタッフ個々の看護力強化と専門性の向上に努めた。

1) 目標管理と評価

近森会グループ看護部目標：

地域のニーズに応えられる看護の進化／深化

近森オルソリハビリテーション病院看護部目標：

病院機能を考えた看護・ケアの実践

～柔軟な発想でその人らしい生活を支える～

図 1 看護部の目標

目標管理では、図 1 の看護部目標から、自部署の具体的な目標をたて、更に、3 ヶ月毎に強化目標をたて、各部署で実施・評価してきた。2023 年度の強化目標は、看護師実践

能力のコアとなる4つの力（日本看護協会）を取り上げ、「ニーズ」、「ケアする力」、「多職種協同」、「意思決定支援」とした。個人の目標評価についても、毎月自己評価を行っている。看護部基本姿勢は、「気づく・学ぶ・考える」であり、あらゆる状況に応じて対応できる組織と人材を育成していきたいという思いもあり、柔軟な発想を大切に、患者さん個々の状況を客観的に捉えながら個別性を考え、患者のその人らしさを考慮した計画を元に、看護・ケアの提供を行い、少しでも安心して暮らせる生活の獲得にむけ支援している。また、看護部は医療従事者間の調整役も意識しながら、よりよいチーム作りと医療の提供ができるように努めた。

2) 労働環境・人員確保

労働環境については、大きな変化はなく、感染対策を実施することと、各個人の生活が脅かされないように支援や面談を行った。有給休暇の取得をはじめ、情報の共有と説明を行い、少しでも個々が納得しながら勤務できる環境作りに努めてきた。バースディ休暇については取得率も向上した。

2023年度は新人看護師配置はなく、2年目以上の看護師の育成に努めた。中途採用者はパート看護師3名あり、60代ではあるが経験を活かした看護介入につなげている。看護補助者では、派遣業者による人員確保にトライし、3名の入職があり指導を行いながら、より充実したケアの提供を目指している。

3) その他

看護の質向上や整形外科の専門性を高めるために、学会や勉強会への積極的な参加の働きかけを行った。看護研究へ取り組むスタッフの研修参加、骨粗鬆マネージャーの学会参加や様々な看護関連学会へ参加をして、研究報告もする事が出来た。個人単位ではラダーの申請に取り組んだ者、積極的に研修参加を申し出る者など、学ぶ姿勢としては意識が高い風土が出来ていると感じている。今後も研究活動や専門性の向上に向けて取り組んでいく。

委員会報告では、教育・医療安全・感染対策の各委員会より次項に報告を添付する。

4. データと主な委員会活動報告

- 1) オルソ教育委員会資料（添付資料①）
- 2) オルソ医療安全管理委員会資料（添付資料②）
- 3) オルソ感染対策委員会資料（添付資料③）

5. おわりに

地域に密着した病院として、これからも個々の患者さんに向き合い、柔軟性をもって適切な医療・看護の提供に努めていく。当院の運営基本方針の中に、「あなたのために」の気持ちでよき医療人としてすべての人に接する」とあり、当院に関わるすべての人の安全・安心のためにこれからも地域医療の中の役割を考え、「ともに歩む・ともに喜ぶ」のフレーズを掲げ、医療・看護に従事していく。

オルソリハビリテーション病院 教育委員会

副看護部長 山崎 成美

看護部教育委員会では、看護職員の人としての成長と職業人としての能力開発を目指すことを目的とし、①看護サービスに関して看護職員の学習ニーズに対応するために必要な教育を行う②研究活動を指導・支援し発表の場を提供する③外部研修生に対しその研修目的達成するために活動を行った。当院は整形外科及び内科のリハビリ病院であり専門的知識・技術の教育に力を入れており、日頃から熟練した看護が出来る事を目指している。

今年度は、出来る限りコロナ禍の影響を受ける事なく、主に集合研修を取り入れた。

2024年1月より回復期病棟から地域包括ケア病床への機能変更があり、内科患者への対応も必要なことから内科疾患や急変時の対応についての研修を多く取り入れた。

看護の専門職として常に最善のケアを提供するために必要な知識、技術、態度の向上を促すための学習を支援し、体系的に計画された学習や個々が自律的に積み重ねる学習、研究活動を通じた学習などさまざまな形態をとる学習を支援する事を目的として活動を行ってきた。

教育委員会活動としては、研修参加への促しや新人、中途採用者や異動者の育成、ラダー研修や申請についての支援などを行った。診療報酬の改定に伴い専門職として求められることも変化していくなかで、看護師、准看護師、介護福祉士、看護補助者が安全に、安心して業務を行い質の高いケアを提供できるよう支援をした。

1、全職種対象研修会

今年度は、計画通りに実施が出来た。必須研修の中では院内での Zoom 視聴による研修も取り入れ、分散開催等の工夫を行った。参加率としては良く、アンケートの満足度も高い結果となっていた。今年度も参加者のニーズに沿う内容となっていたのではないかと考える。感染対策委員会や医療安全委員会、医療ガス委員会は毎年工夫を行い全職種が理解し、実践に活かせる内容を研修に取り入れていた。

【表1】全職種対象研修会

2月20日(月) ～2月26日(日)	【必須】医療安全研修会 新型コロナウイルス感染症と医療安全 You tube 動画配信	参加者 125名 参加率 96.8%
5月1日(月)～ 5月31日(火)	【必須】感染対策研修 衛生的な手洗いと手指消毒の実際 各部署で実施チェック表を提出する	参加者 130名 (参加率100%)
8月22日(月) ～9月30日(金)	【必須】医療安全研修会 S-QUE 院内研修 1000 ‘E ナース新特別企画より 『接遇～患者家族との信頼関係を築く接遇』 講師：鳥取大学附属病院救急救命センター看護師長（日本接遇教育協会接遇インストラクター）足立 好美	参加者 134名 参加率 96.2%
9月11日(月)	薬剤管理研修会『こんなこと知っていますか？薬剤の取り扱いについて』 講師：薬剤師 東野 愛	参加者 22名
10月10日(火)	医療機器・医療ガス研修会 医療機器…輸液ポンプ及びシリンジポンプ、ベッドサイドモニター、AED の使用方法について 医療ガス…酸素吸引について 講師：近森病院 ME（西村哲、野嶋のぞみ）	参加者 20名

11月27日(月)	骨粗鬆症の知識の共有と FLS の意義について 講師：骨粗鬆症マネージャー（外来 関恵理、平尾香保、吉本七瀬）	参加者 22 名
11月13日(月) ～12月11日 (月)	【必須】感染対策研修会 『耐性菌とコロナ治療薬』対面及び Zoom を活用 講師：薬剤部 東野 愛	参加者 144 名 参加率 93.8%
12月11日(月)	院内研修会『褥瘡と栄養について』 講師：管理栄養士 谷本真紀	参加者 23 名

2、看護部研修

今年度は病棟機能が変更になる為、S-QUE クリニカルラダー別研（疾患別）と内科疾患や急変時のアセスメントについての研修を中心に集合研修を企画実施した。近森病院の老人看護専門看護師や急性・重症患者看護専門看護師に講師になってもらい研修を行うことが出来、終了後のアンケートでも内容の理解が良かった。これらの企画の中で看護実践能力、ニーズをとらえる力、ケアする力、意思決定を支える力、協働する力について気付くことが出来、実践へつないでいくことを期待したい。

また教育の企画外ではあったが心電図について理解をする為に医師からの講義も開催したが、これらは参加者が予測外に多く、ニーズの高さに気付いた。

次年度からは、日本看護協会が打ち出している、生涯主体的に自ら学び続けることが求められて行くため、看護職が自ら学ぶことが出来る支援について考えていく。

【表2】看護部研修

1月11日(火)	日本看護協会オンデマンド 「看護の専門性の発揮に資するタスクシフトシェア」 について視聴する	参加者 8 名
2月20日(月)	①看護記録について…小松師長 ②看護の基本的ケア 10 項目…中川正樹主任	参加者 19 名
4月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (11-1・11-2) 中枢神経系の解剖生理とフィジカルアセスメントの基本、中枢神経系の障害とフィジカルアセスメントケア	
5月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (12-1・12-2) 呼吸器系の解剖生理とフィジカルアセスメントの基本、呼吸器系の障害とフィジカルアセスメントケア	
5月29日(月)	地域包括ケアについて 講師：3階師長 矢口 操 受講者	参加者 16 名
6月12日(月)・ 6月19日(月)	看護必要度研修会 講師…看護必要度研修修了者	参加者 37 名
6月26日(月)	看護実践研修 「高齢者の脱水についての理解を深める」 講師…近森病院老人看護専門看護師 明神拓也	参加者 17 名
6月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (13-1・13-2) 循環器系の解剖生理とフィジカルアセスメントの基本、循環器系の障害とフィジカルアセスメントケア	

7月10日(月)	看護倫理研修 「見ている世界が違うから起きること」 講師…近森病院 急性・重症患者看護専門看護師 池島真由美	参加者 18名
7月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (14-1・14-2) 消化器系の解剖生理とフィジカルアセスメントの基本、消化器系の障害とフィジカルアセスメントケア	
8月29日(月)	看護実践研修 「患者アセスメント」 講師：近森病院急性・重症患者看護専門看護師 池島真由美	参加者 16名
8月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (44-1) 人生の最終段階における医療ケアの決定プロセスに関するガイドライン	
8月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (16-1・16-2) 呼吸器系の解剖生理とフィジカルアセスメントの基本、呼吸器系の障害とフィジカルアセスメントケア	
9月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (62-1) 論理的レポートの書き方	
9月25日(月)	看護実践研修 「急変予測 こんな兆候は危ない」 講師：近森病院急性・重症患者看護専門看護師 池島真由美	参加者 13名
10月23日(月)	看護実践研修 「全人的苦痛と苦痛緩和について」 講師…近森病院急性・重症患者看護専門看護師 齋坂美賀子	参加者 17名
9月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (17-1・17-2) 心不全・循環不全の解剖生理とフィジカルアセスメント、心不全・循環不全とフィジカルアセスメントケアの選択	
10月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (69-2) 地域包括ケアシステムと医療サービスの役割	
10月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (18-1・18-2) 急性憎悪のハイリスクにあるケースのフィジカルアセスメント、急性憎悪のハイリスクにあるケースのフィジカルアセスメントとケアの選択	
10月6日～10月26日	訪問看護研修…外来、3階、4階スタッフが半日ステーションのスタッフと共に訪問看護に同行した。	参加者 9名
11月20日(月)～12月22日(月)	1回目・・・心電図について 2回目・・・心電図について 3回目・・・心電図について 4回目・・・心電図について	参加者 44名 参加者 69名 参加者 64名 参加者 57名
11月	S-QUE クリニカルラダー別研修 (52-1) 他職種チームと情報共有	

12月11日（月）	褥瘡研修「褥瘡と栄養について、クッションやマットレスの取り扱いについて」	参加者 23名
-----------	--------------------------------------	---------

3、看護補助者研修

今年度は、すべて集合に切り替え S-QUE クリニカルラダー院内研修の利用と講師を依頼し両方での研修を行った。当院は介護福祉士も同じ研修を受けていることから、全員での研修受講が難しく数回に分けて実施している。受講への参加については個人差があり促しが必要な場面もあったが予定通り終了した。

看護補助者として経験が少ないスタッフは、主に補助者は周辺業務を行い慣れてきたら直接ケアへ移行してもらうことになる。研修にあたっては、理解度は確認が出来ていないが今後も看護補助者が安全に、安心して業務が遂行出来るように、企画運営をしていく必要がある。

【表4】看護補助者研修

5月12日（金）	看護補助者の役割の理解、協働について ・医療制度の理解 ・チーム医療の一員となるための役割と責任 ・当院での看護補助者業務について	参加者 18名
6月2日（金）	接遇マナーとコミュニケーション ・介護の心がまえ ・好感が持てる誠意ある態度とは ・信頼関係とコミュニケーション	参加者 18名
7月21日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修 「ベッドから車いすへの移乗と座り直し」 移乗介護の確認ポイント、端座位から車椅子への移乗介護、 スライディングボード	参加者 19名
8月18日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修 「認知症介護の理解と実践」 認知症の理解、食事入浴排泄のケア、困難事例の対応	参加者 19名
9月15日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修 「守秘義務とプライバシー」 個人情報とは何か、ガイダンスの理解、法的側面の守秘義務	参加者 21名
10月20日（金）	感染予防について 手洗いについての演習	参加者 21名
11月17日（金）	医療安全研修 KYT グループワーク	参加者 18名
12月15日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修 安全な食事介助と誤嚥予防	参加者 18名

4、看護実習

今年度は高知中央高校（基礎・成人）の実習の受け入れとなった。コロナ禍以後の受け入れとなりスタッフも少し戸惑っていた場面も見られたが、実習生が少しでもスタッフや患者と図れるように配慮を行った。感染対策面では、まだ制限も残されてはいるが、次年度も指導者と共に実習支援を行っていく。

近森オルソリハビリテーション病院 医療安全委員会

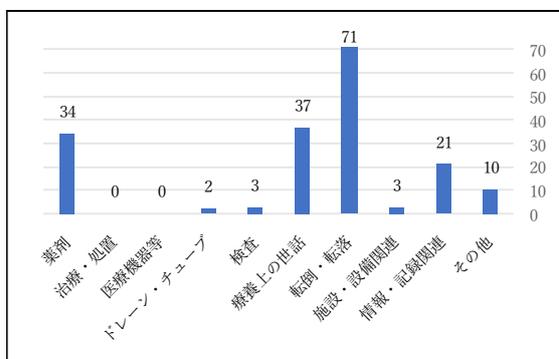
シニア看護師長 岡村美紀

委員会開催及びインシデント・アクシデント報告件数

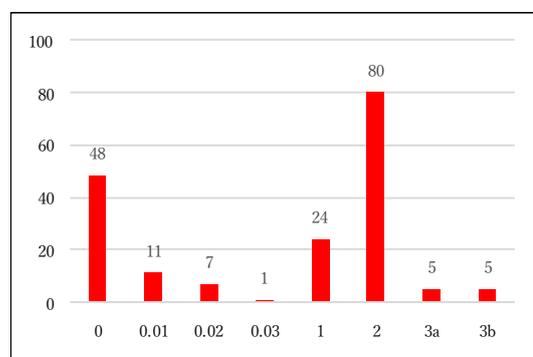
医療安全委員会は、「患者の安全を守り、医療の質を高めるための医療事故防止活動を通じて当院および各部門における医療事故防止体制の整備を図り、適切かつ安全な医療を提供する」ことを目的とし活動をしている。2023年の委員会開催は、毎月1回の12回、委員会の下部会（セーフティスタッフ会）は17回の開催であった。

2023年（令和5年）1年間のインシデント・アクシデント報告件数は、インシデント176件、アクシデント（3b以上）5件の合計181件あった。（事例の内容と事象レベルはグラフ1、2参照）

◆グラフ1 事例の内容別報告件数



◆グラフ2 事象レベル別報告件数



強化取り組み

年度の取り組みとして、医療安全委員会で強化取り組み項目を決定し分析及び必要な対策を実施している。今年度も「転倒・転落」と「患者確認」に注目し活動をした。「転倒・転落」については、入院時より環境設定や注意喚起を行い、危険行動が予測される患者ではコールマットやひもコールの活用などの対策を行っている。日々の安全対策カンファレンスにて他職種との情報交換・共有を行い、効率よくタイムリーに安全対策の評価ができています。「患者確認」については、内服薬関連・情報記録関連で確認不足による報告が多かった。また、「療養上の世話」について、主に臨床栄養部（調理担当関連）からケアレスミスによる報告となっており、人員不足によるフォロー体制や共通ルールの厳守が不足していたと考えられる。このインシデント内容については、関連部署のセーフティスタッフと情報共有・注意喚起をし、配膳時など協力体制を強化したことでアクシデントにつながる報告はなかった。そのほか、「新型コロナウイルス感染症予防対策による面会制限」による入院患者の荷物などの受け渡し窓口対応については、担当内容をマニュアル化したことでトラブル発生なく対応できた。院内研修では、他院での「新型コロナウイルス感染症対策についての取り組み」を知ることで、日々の感染対策の重要性や、当院での取り組みを振り返る良い機会となった。引き続き、入院生活を送るために患者に必要な安全対策の実施とカンファレンスの継続、働くスタッフの業務が安全・安心して行えるよう、強化項目をあげて安全の質の向上に努め医療安全活動を続けていく。

院内ラウンド

部署の医療安全委員（セーフティスタッフ）には、部署内の医療安全活動に注目し、ラウンド報告を委員会へとあげ、事象の背景や原因につながりはないかと詳細に考えるツールとなっている。また、報告内容を参考に医療安全管理者でラウンドを行い、部署内での状況を下部会の議題とし、

院内での検討できた。

院内研修会

新人研修をはじめ、全職種対象の研修会では、当院で発生したインシデント等より、必要な内容を医療安全委員会下部会にて提案し、医療安全管理者が中心となり医療安全委員会等で決定する。表4に一部内容を示す。

◆表4 2023年医療安全研修会の内容と参加率

開催日	研修名 (テーマ)	内容	対象者と 参加率
2023/2/20～26	2022年度下期院内研修会	令和4年度高知市医療安全研修会(①新型コロナウイルス感染症を振り返って②JCHO高知西病院の取り組み③感染症対策と医療安全)のYouTube配信を視聴	全職員 96.8%
2023/4/11	新人研修	①医療安全に対する考え方を理解する。 ・医療安全施策の動向、ヒューマンエラーと防止策:「人は誰でも間違える」からこそ必要な対策、エラーに関する人間的特性、5Sの定義、ヒューマンエラー防止のキーワード等。医療安全とコミュニケーション、医療安全のための危険予知訓練。 ②医療安全活動の紹介。	新人職員 100%
2023/9/25～ 10/13	2023年度上期院内研修会	転倒予防について	全職員 96%
2023/11/17	看護補助者研修	転倒予防について(KYT)	看護補助者 介護福祉士 100%

オルソ感染対策委員会

オルソリハビリテーション病院感染対策副委員長 関 恵里

活動

2023年度も新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、継続した対策が必要であり、『安全と安心な医療の提供と自己を守る』ことを目的に活動を行った。病院全体で継続的で統一した取り組みと、各部署での状況に応じた感染対策が重要となってくるため、感染ミーティングを継続し、各部署の課題の抽出と改善に取り組んだ。

オルソ転入後にコロナを発症された患者の入院があったが、感染対策委員長である院長先生を中心に、近森病院感染制御部のサポートを得ながら当該病棟の適切な感染対策の尽力によりクラスターを発生することなく収束することができた。

研修では、新人研修や看護補助者研修で、感染対策の基本となる「手指衛生」と「個人防護具の着脱」をテーマに、グリッターバグや個人防護具の着脱の演習を行った。上期の研修でも感染対策の基本である「衛生的手洗い・手指衛生」を各部署のICTが中心となり手技の確認を行った。下期の研修では、「耐性菌とコロナ治療薬」をテーマに、Zoomを活用したハイブリット方式での講義を実施した。当日研修を受講できない職員は各部署のICTを中心に数日間をかけて実施し、ほぼ全職員が受講することができた。

また、ICCのメンバーによるラウンドを実施し、換気・環境面で感染対策の実施状況を確認することも継続した。感染状況の把握と対策に追われる日々であったが、オルソ全職員が寄与するところが大きく、感染対策が継続できており今後も、オルソ全体として取り組んでいけるよう活動を行っていきたい。

表1 2023年1月から12月院内外研修会

研修日	研修会名	参加人数
4月11日	オルソ新人教育（感染研修会）	4名
5月1日～ 31日	2023年度オルソ感染研修会・上期 『衛生的手洗い・手指衛生』	130名
10月20日	看護補助者研修（感染研修会）	14名
11月13日～ 12月11日	2023年度オルソ感染研修会・下期 『耐性菌とコロナ治療薬』	144名

職場巡視：2名以上の多職種で1週間毎

週報と菌の感受性報告：1週間毎

マニュアル改訂

感染ミーティング：4週間毎

オルソリハビリテーション病院 感染対策下部委員会：第4水曜日

オルソリハビリテーション病院 感染対策委員会：第2水曜日